



Sun Fire 880™ サーバー ご使用にあたって

サン・マイクロシステムズ株式会社
東京都世田谷区用賀 4丁目 10番 1号
SBS タワー 〒158-8633

Part No. 816-0763-11
Revision A, 2001 年 10 月

Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョーベイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, AnswerBook, docs.sun.com, Sun Enterprise, OpenBoot, SunSwift, SunVTS, JumpStart, SunSolve Online は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン のロゴマーク および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Java およびその他の Java を含む商標は、米国 Sun Microsystems 社の商標であり、同社の Java ブランドの技術を使用した製品を指します。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Netscape, Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。Netscape Communicator については、以下をご覧ください。Copyright 1995 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典：	Sun Fire 880 Server Product Notes Part No: 806-6593-14 Revision A
-----	---



目次

同義の製品名	1
マニュアルの改版履歴	1
入手可能なオンラインマニュアル	2
システムのソフトウェア要件	2
必要なソフトウェアパッチ	3
Solaris 8 10/01 に必要なソフトウェアパッチ	3
Solaris 8 07/01 に必要なソフトウェアパッチ	4
PCI ホットプラグをサポートするサンの PCI カード	5
サンが認定していない PCI カードを Sun Fire 880 プラットフォームで使用する場 合の注意事項	6
OpenBoot ファームウェアマニュアル	6
FC-AL ディスクドライブファームウェアの問題	7
Sun Fire 880 FC-AL バックプレーンファームウェアのインストール	8
システムのハングアップからの回復手順	10
マニュアルの訂正	13
マザーボードファントレー取り外し手順の訂正	13
マザーボードファントレー取り付け手順の訂正	14
ディスクドライブの取り付け手順の訂正	14
FC-AL ディスクケースの取り付け手順の訂正	15

FRU パーツ番号の訂正	15
DIMM の注文	15
パーツ番号の訂正	15
ループ B PCI FC-AL データケーブルの配線指示の訂正	16
拡張 FC-AL バックプレーンの取り付け手順の訂正	17
制限事項	19
PCI ホットプラグ操作の実行中に別の操作を開始すると、システムのパニックが発生する (バグ ID 4452433)	19
Solaris 8 で Sun Fire 880 ハードウェアウォッチドッグ機能が動作しない (バグ ID 4374518)	19
RSC から XIR コマンドを発行すると、システムがリセットされる (バグ ID 4411330)	20
接続されていない電源装置について、RSC が OK と報告する (バグ ID 4421087)	20
空いているファントレーが RSC イベントログに障害メッセージを生成する (バグ ID 4470063)	20
ホットプラグ中にディスクドライブを取り外すと、devfsadm -C コマンドを実行する必要がある (バグ ID 4418718)	21
SunVTS の実行中に picld が終了し、エラーが報告されない (バグ ID 4418396、4486083)	21
デュアルループの内部記憶装置アレイで SunVTS dpmtest が失敗する (バグ ID 4487855)	22
dpmtest のループバックサブテストで、不正なパケットエラーが表示される (バグ ID 4493252)	22
prtdiag がファン障害を速度 0 の使用可能として報告する (バグ ID 4431194)	23
hsfs:hsnode table full (バグ ID 4082275、4475306)	23
電源装置のホットプラグ中の断続的な picld エラー (バグ ID 4431165)	24
Sun Expert3D-Lite PCI グラフィックアクセラレータカードで、システムがハングアップする (バグ ID 4474181)	24
適正温度を超えた状態になっても、CPU/メモリスロットの障害 LED が点灯しない (バグ ID 4451164)	25

接続された D1000 ディスクアレイで SunVTS を実行すると、SCSI の警告が発生する (バグ ID 4482342) 25

電源装置が 1 つだけの場合に、ホットプラグ機能が使用不可にならない (バグ ID 4408237) 26

あいまいな CE メモリー通知 (バグ ID 4491362) 27

Sun Fire 880 サーバーご使用にあ たって

同義の製品名

このシステムの正式なリリース名称は、Sun Fire™ V880 です。製品上や、システムのマニュアルまたはソフトウェアで Sun Fire 880 と記されることもありますが、すべて Sun Fire V880 を指します。両方の名称は同じ意味を持ち、どちらを使用することもできます。

マニュアルの改版履歴

このマニュアルの改版履歴を、版数およびリリース年月ごとにまとめて示します。旧版で更新された箇所は、すべて最新版にも組み込まれます。つまり、11 版での更新は、その後のすべての改訂版に適用されます。このマニュアルの初版は、2001 年 9 月発行の 806-0763-10 です。

2001 年 10 月、806-0763-11 の改訂部分

- 3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」の一覧の更新
- 5 ページの「PCI ホットプラグをサポートするサンの PCI カード」の一覧の更新
- 7 ページの「FC-AL ディスクドライブファームウェアの問題」の 36G バイトドライブのメーカー番号の修正および更新
- 8 ページの「Sun Fire 880 FC-AL バックプレーンファームウェアのインストール」へのキースイッチ情報の追加

2001 年 10 月、806-0763-11 の改訂部分

- 10 ページの「システムのハングアップからの回復手順」の追加
- 15 ページの「FRU パーツ番号の訂正」内のシステム用 DIMM を注文するときの FRU 番号の更新
- 27 ページの「あいまいな CE メモリー通知 (バグ ID 4491362)」の追加

入手可能なオンラインマニュアル

次の URL から、Sun Fire 880 サーバーをサポートするすべてのオンラインマニュアルを入手できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs>

このサイトを定期的にチェックして、このマニュアルの最新版を含む、Sun Fire 880 製品のマニュアルの最新版を確認してください。新しい情報が入ると、最初に英語版の製品情報が更新され、そのあと各言語の翻訳版が更新されます。ご使用の製品情報と英語版の製品情報の更新履歴を比較して、最新情報を入手していることを確認してください。

システムのソフトウェア要件

Sun Fire 880 サーバーには、Solaris™ 8 7/01 オペレーティング環境または互換性のある Solaris のバージョンが必要です。使用している Sun Fire 880 サーバーに適切なバージョンのオペレーティングシステムがインストールされていることを確認するには、`/etc/release` ファイルを調べてください。ファイルに「Solaris 8 7/01」という文字か、互換性のある Solaris のバージョンを示す文字が含まれていることを確認します。

必要なソフトウェアパッチ

この節では、Sun Fire 880 サーバーで必要なソフトウェアパッチの一覧を示します。これらのパッチは、ご購入先から入手するか、次の URL の SunSolve OnlineSM Web サイトからダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

このマニュアルでは、システムにインストールされている Solaris オペレーティングシステムのバージョンごとにパッチを一覧表示します。Sun Fire 880 のパッチの最新情報については、SunSolve Online Web サイトの「Highly Recommended Patches Sun Fire 880」を参照してください。パッチのインストール手順については、各パッチに添付の README ファイルを参照してください。

Solaris 8 10/01 に必要なソフトウェアパッチ

注 - 次に、Solaris 8 10/01 オペレーティングシステムがインストールされている Sun Fire 880 システムに必要なパッチの一覧を示します。これらのパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

Solaris 8 10/01 がインストールされた Sun Fire 880 に必要なパッチ

パッチ ID	説明
109962-04 以降	FC-AL ディスクドライブファームウェアパッチ
109882-04 以降	SunOS 5.8 : eri ヘッダーファイルパッチ
111474-03 以降	Sun Fire 880 Fibre-Channel バックプレーンファームウェアパッチ
111412-05 以降	SunOS 5.8 : mpxio/scsi_vhci マルチパス入出力モジュールパッチ
111413-04 以降	SunOS 5.8 : luxadm および liba5k、libg_fc パッチ*
111095-05 以降	SunOS 5.8 : fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ
111096-03 以降	SunOS 5.8 : fcip ドライバパッチ
111097-04 以降	SunOS 5.8 : qlc ドライバパッチ
110849-07 以降	SunOS 5.8 : SUNW、Sun Fire 880 の PICL サポート

*パッチ 111413 には、パッケージ SUNWsan (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、Sun Download Center から入手できます。URL は次のとおりです。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップグレードをダウンロードしてください。

Solaris 8 07/01 に必要なソフトウェアパッチ

注 – Solaris 8 07/01 オペレーティングシステムがインストールされている Sun Fire 880 システムに必要なパッチの一覧を示します。これらのパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

Solaris 8 07/01 がインストールされた Sun Fire 880 に必要なパッチ

パッチ ID	説明
109962-04 以降	FC-AL ディスクドライブファームウェアパッチ
108528-10 以降	Kernel Update パッチ
110723-03 以降	SunOS 5.8 : /kernel/drv/sparcv9/eri パッチ
109882-04 以降	SunOS 5.8 : eri ヘッダーファイルパッチ
110460-09 以降	SunOS 5.8 : fruid/PICL プラグインパッチ
111416-05 以降	RSC 2.1 バグ修正パッチ
111854-01 以降	SCSI VTS パッチ
111412-05 以降	SunOS 5.8 : mpxio/scsi_vhci マルチパス入出力モジュールパッチ
111413-04 以降	SunOS 5.8 : luxadm および liba5k、libg_fc パッチ*
111095-05 以降	SunOS 5.8 : fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ
111096-03 以降	SunOS 5.8 : fcip ドライバパッチ
111097-04 以降	SunOS 5.8 : qlc ドライバパッチ
110842-05 以降	SunOS 5.8 : SUNW、Sun Fire 880 の hpc3130 ドライバパッチ 注：パッチ 110849-07 以降をインストールする前に、このパッチをインストールする必要があります。
110849-07 以降	SunOS 5.8 : SUNW、Sun Fire 880 の PICL サポート 注：このパッチをインストールする前に、パッチ 110842-05 をインストールする必要があります。

*パッチ 111413 には、パッケージ SUNWsan (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、Sun Download Center から入手できます。URL は次のとおりです。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップグレードをダウンロードしてください。

PCI ホットプラグをサポートするサンの PCI カード

動作中のオペレーティング環境から PCI カードを正常に取り外すには、カード上の各装置が切り離し安全ドライバを搭載している必要があります。「切り離し安全」ドライバを使用すると、システムのほかの場所で使用されている同じような装置を処理するためのインスタンスをオープンしたままで、ドライバの別の 1 つのインスタンスをクローズできます。切り離し安全ドライバであるためには、DDI_DETACH と呼ばれる基本的な DDI/DKI (Device Driver Interface/Device Kernel Interface) 機能を実行する必要があります。DDI_DETACH 機能をサポートしないドライバは、「切り離し危険」とみなされます。

サンでは、切り離し安全デバイスドライバを使用するホットプラグ対応の PCI カードを各種提供しています。次の表に、このマニュアルの発行時点までに切り離し安全であることがテストおよび確認された PCI カードを示します。

サンの パーツ番号	カードタイプ	ドライバ
X1032A	10/100BaseT Sun FastEthernet + SE Ultra/Wide SCSI	fas/sd, hme
X1033A	10/100BaseT Sun FastEthernet PCI Adapter	hme
X6540A	Dual Channel Single-ended Ultra/Wide SCSI	glm
X6541A	Dual Channel Differential Ultra/Wide SCSI	glm
X6799A	Sun StorEdge PCI Single Fibre Channel Network Adapter	qlc
X1141A	Sun PCI Gigabit Ethernet Network Interface Card	ge
X1034A	Quad FastEthernet PCI Card	qfe
X1150A	Sun GigaSwift Ethernet Network Interface Card	ce

注 – サン以外のドライバ (サン以外のベンダーから購入したもの) の多くは、DDI_DETACH 機能をサポートしていません。本番環境で使用する前に、サン以外の PCI カードの機能性とホットプラグの互換性を、そのカードのベンダーに確認してください。

注 – PCI ホットプラグ操作が完了するまで待ってから、新しい操作を開始してください。

Sun Fire 880 PCI ホットプラグ操作の詳細は、『Sun Fire 880 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。このオンラインマニュアルは、使用している Solaris リリースの Computer Systems Supplement CD に含まれる、Solaris on Sun Hardware AnswerBook から入手できます。

PCI ホットプラグ操作をサポートするサンの PCI カードの最新情報については、次の URL から入手できるリリースノートの最新版を参照してください。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs>

サンが認定していない PCI カードを Sun Fire 880 プラットフォームで使用する際の注意事項

強力なシステムオペレーションを確保するには、Sun Fire 880 システムに取り付けられるすべての PCI カードおよび関連するドライバが、サンによってプラットフォーム上での使用を認定されていることが非常に重要です。カードとドライバのソリューションが認定されたものでない場合、特定のバス上でカードとドライバ間に相互作用が発生し、潜在的なシステムパニックやその他の否定的な結果につながる可能性があります。認定済みの PCI カードおよび Sun Fire 880 システムでの構成に関する最新情報については、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/io>

OpenBoot ファームウェアマニュアル

Sun Fire 880 サーバーでは、OpenBoot™ 4.x システムファームウェアを使用しています。ファームウェアの使用法については、『OpenBoot 4.x Command Reference Manual』を参照してください。このマニュアルのオンライン版は、Solaris ソフトウェアと同梱の OpenBoot Collection AnswerBook に含まれています。

注 – Solaris ソフトウェアの一部のバージョンでは、OpenBoot 4.x のマニュアルは含まれていません。使用している Solaris ソフトウェアのバージョンに OpenBoot 4.x のマニュアルが含まれていない場合は、<http://docs.sun.com>にあるオンラインマニュアルを参照してください。

FC-AL ディスクドライブファームウェアの問題

Sun Fire 880 システムに取り付けられたすべての FC-AL ディスクドライブは、Sun Fire 880 システムのファームウェアバージョンの最小要件を満たしている必要があります。不適切なファームウェアによって、診断が困難なさまざまなシステムの問題が発生することがあります。ディスクドライブのファームウェアバージョンを確認するには、Solaris format (1M) ユーティリティの inquiry 機能を使用します。次の表に、このマニュアルの発行時点での Sun Fire 880 ディスクドライブのファームウェアバージョンの最小要件を示します。

サンの パーツ番号	容量	メーカー	ファームウェアバージョンの 最小要件
540-4525	36G バイト	Seagate ST336605FC	0438
		Seagate ST336704FC	0726
540-4905	72G バイト	Seagate ST373405FC	0438

注 – Sun Fire 880 では、36G バイト未満の容量のドライブはサポートされていません。

Sun Fire 880 がサポートするディスクドライブの最新情報については、次の URL から入手できるリリースノート最新版を参照してください。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs>

注 – 出荷時設定またはユーザー取り付けオプション、現場交換可能ユニット (FRU) として取り付けられた Sun Fire 880 ディスクドライブは、すべてファームウェアバージョンの最小要件を満たしています。

Sun Fire 880 FC-AL バックプレーン ファームウェアのインストール

Sun Fire 880 FC-AL バックプレーンファームウェアのバックアップイメージは、ご使用の Solaris リリースの Computer Systems Supplement CD に含まれています。Sun Fire 880 FC-AL バックプレーンのファームウェアが破壊された場合は、バックアップイメージを使用して、元のファームウェアでバックプレーンをフラッシュ更新できます。フラッシュ更新では、Solaris luxadm ユーティリティを使用します。詳細は次のとおりです。

バックプレーンファームウェアをフラッシュ更新する前に、サプリメント CD から Sun Fire 880 システムディスクにファームウェアイメージをコピーする必要があります。サプリメント CD ソフトウェアのインストールに Solaris Web Start を使用する場合は、デフォルトでは Sun Fire 880 FC-AL バックプレーンファームウェアはインストールされません。システムディスクにバックアップファームウェアをインストールするには、Custom Install オプションを選択し、Sun Fire 880 FC-AL バックプレーンファームウェアを選択します。詳細は、『Solaris Sun ハードウェアマニュアル』の「サプリメント CD のソフトウェアのインストール」を参照してください。

注 – バックプレーンファームウェアの最新バージョンは、いつでも SunSolve Online Web サイト (sunsolve.sun.com) から入手できます。ファームウェアは可能な限り、サプリメント CD ではなく SunSolve サイトからダウンロードしてインストールするようにしてください。サプリメント CD のファームウェアは、SunSolve サイトにアクセスできないときの緊急用として提供されています。Solaris リリースによっては、サプリメント CD のファームウェアは、SunSolve にあるファームウェアより古いバージョンである可能性があります。SunSolve Web サイトからファームウェアをインストールするには、ファームウェアイメージに添付の README ファイルを参照してください。

ファームウェアイメージは、サプリメント CD からインストールした場合でも、SunSolve Web サイトからダウンロードした場合でも、デフォルトのインストール先は、Sun Fire 880 システムディスクの次の場所になります。

```
/usr/platform/SUNW,Sun-Fire-880/lib/images/int_fcbpl_fw
```

イメージがこの場所にインストールされたら、次の手順に従って、フラッシュ更新を実行します。

1. スーパーユーザーで次のコマンドを入力して、シングルユーザーモードに入ります。

```
# init s
```

2. セキュリティーキースイッチを標準位置に入れます。

権限のないユーザーによってシステムのフラッシュ PROM がプログラミングされることを防止するため、キースイッチはロック位置になっています。

3. 次の luxadm サブコマンドを入力して、フラッシュ更新処理を開始します。

```
# luxadm download -f firmware_path enclosure_name
```

ここで指定する値は、次のとおりです。

- *firmware_path* は、システムディスク上のファームウェアの位置です。ここでは、`/usr/platform/SUNW,Sun-Fire-880/lib/images/int_fcbpl_fw` になります。
- *enclosure_name* は、Sun Fire 880 内部記憶装置アレイに割り当てられた格納装置の名前で、デフォルトでは FCloop です。最初に格納装置名を確認する必要がある場合は、luxadm probe サブコマンドを使用します。

注 - luxadm ユーティリティの詳細は、サプリメント CD の Solaris on Sun Hardware AnswerBook2 に含まれる『特記事項 :luxadm ソフトウェア』を参照してください。

4. スーパーユーザーのプロンプトが再び表示されたら、15 分以上待つてから、次の手順に進みます。

この最低限の待機時間は、フラッシュ更新処理が、システム内のすべての SSC100 プロセッサにファームウェアコードを伝達するために必要です。この間は、ほかの操作を行わないでください。

5. 必要な待機時間が過ぎたら、システムをシングルユーザーモードで再起動します。次のように入力します。

```
# reboot -- -s
```

6. 次の luxadm サブコマンドを入力して、フラッシュ更新処理が正常に完了したことを確認します。

```
# luxadm display enclosure_name
```

enclosure_name は、Sun Fire 880 内部記憶装置アレイに割り当てられた格納装置の名前です。

コマンド出力には、システムの各 SSC100 の状態が表示されます。次に、デュアルバックプレーンシステムの出力例の一部を示します。

```
SSC100's - 0=Base Bkpln, 1=Base LoopB, 2=Exp Bkpln, 3=Exp LoopB
SSC100 #0:   O.K. (9222/ 120A)
SSC100 #1:   O.K. (9222/ 120A)
SSC100 #2:   O.K. (9222/ 120A)
SSC100 #3:   O.K. (9222/ 120A)
```

各 SSC100 に「O.K.」が表示され、括弧内のファームウェアバージョンが同じであることを確認します。確認された場合は、フラッシュ更新処理が正常に完了しています。そうでない場合は、約 2 分待ってから、この手順を繰り返してください。

7. フラッシュ更新処理が完了したら、init コマンドを使用してシステムをマルチユーザーモードに戻します。

たとえば、次のように入力します。

```
# init 3
```

8. セキュリティーキースイッチをロック位置に入れます。

通常の運用中は、ロック位置に設定しておくことをお勧めします。

これで、システムは通常の操作を再開できます。

システムのハングアップからの回復手順

まれに、システムのコンソールがハングアップしたり、リセットループに入ることがあります。その場合は、次の手順に従ってハングアップ状態から回復します。詳細は、『Sun Fire 880 サーバーオーナーマニュアル』の「OpenBoot の非常時の手順につ

いて」または『Sun Fire 880 サーバースerviceマニュアル』の「POST 診断の使用方
法」を参照してください。Solaris 関連の障害追跡の詳細は、『Solaris のシステム管理
(第 2 巻)』の「ソフトウェアの問題解決の概要」を参照してください。

1. システムがハングアップしていることを確認します。

- a. ping コマンドを使用して、ネットワークが動作しているかどうかを確認します。
また、ほかのユーザーからの既存のログインが有効または応答可能かどうかを確認
します。

ほかのログインが有効である場合は、そのログインを使用して
/var/adm/messages の内容を表示し、システム障害を示すメッセージを確認し
ます。

- b. ttya 接続を使用して、コンソールのログインセッションが確立できることを確認し
ます。

コンソール接続を正常に確立できる場合は、ハングアップではなく、ネットワーク
関連の障害である可能性があります。ネットワーク障害の可能性がある場合は、同
じサブネットワークまたはハブ、ルーター上の別のシステムに対して ping または
rlogin、telnet を実行してみます。影響を受けたシステムが NFS サービスを提供し
ている場合は、NFS がほかのシステム上で動作していることを確認します。

2. 応答するログインセッションがない場合は、システム LED の状態を記録します。

システム LED は、システムのハードウェア障害を示すことがあります。システム
LED の詳細は、『Sun Fire 880 サーバークオーナーマニュアル』を参照してください。

3. キーボードから Stop-A コマンドを発行して、システムに ok プロンプトが表示され
るかどうかを試します。

標準または USB キーボードが接続されたシステムで Stop-A コマンドを実行する
と、ok プロンプトが表示されます。システムのキーボードの詳細は、『Sun Fire 880
サーバークオーナーマニュアル』の「OpenBoot の非常時の手順について」を参照して
ください。

- a. システムが Stop-A コマンドに応答した場合は、printenv コマンドを発行し
て、OpenBoot 構成変数を表示します。

OpenBoot 構成変数の詳細は、『Sun Fire 880 サーバースerviceマニュアル』の
「POST 診断の使用方法」を参照してください。

- b. diag-switch 変数に true を、diag-level 変数に max を設定します。

4. sync コマンドを発行して、クラッシュ (コア) ダンプファイルを取得します。

コアダンプファイルを保存しておくこと、システム障害を診断するための貴重な情報を購入先のサポート技術者に渡すことができます。コアダンプファイルの詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 2 巻)』の「システムクラッシュ情報の生成と保存」を参照してください。

OpenBoot 構成変数が autoboot (デフォルト値) に設定されている場合、sync コマンドを発行すると、システムは自動的に再起動します。

5. システムに ok プロンプトを表示できない場合は、セキュリティーキースイッチを診断位置に入れます。

これによって、システムの起動中に POST および OpenBoot 診断が強制的に実行されます。

a. システムの電源ボタンを 5 秒間押します。

この操作によって、即座にハードウェアが停止します。

b. 30 秒以上待ってから、システムの電源ボタンを押してシステムに電源を入れます。

6. POST および OpenBoot 診断ツールを使用して、システムの障害を診断します。

システムが起動処理を開始すると、起動中に POST および OpenBoot 診断が実行されます。これらのツールの詳細は、『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の「診断および障害追跡」を参照してください。

7. システムが再起動できる場合は、/var/adm/messages の内容を表示して、システムの状態に関する詳細情報を確認します。次の情報を調べます。

1. Solaris またはアプリケーションメッセージの時刻表示の間隔が大きいところ
2. ハードウェアまたはソフトウェアコンポーネントに関する警告メッセージ
3. 最後にログインしたスーパーユーザーからの情報。ハングアップ時のシステムの状態について、システム管理者から追加情報を得られないかを確認します。

マニュアルの訂正

マザーボードファントレイ取り外し手順の訂正

『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の「マザーボードファントレイの取り外し方法」に誤りがあります。冗長冷却オプションが構成されたシステムでは、マザーボードファントレイ 5 (主マザーボードファントレイ) を取り外す際に、マザーボードファントレイ 6 のケーブルを外す必要があります。

サービスマニュアルの作業手順 2 のあとにこの手順を追加して、次のようにします。

3. 取り外すファントレイの脱落防止機構付きねじを緩めます。
4. 取り外すファントレイのファントレイケーブルを外します。
5. ファントレイ 5 を取り外す場合で、ファントレイ 6 が取り付けられているときは、ファントレイ 6 からケーブルを外し、ファントレイ 5 を取り外せるようにケーブルにゆとりを持たせます。

注 – 稼働中の Sun Fire 880 システムで、両方のマザーボードファントレイが動作していない場合、環境監視ソフトウェアによってファントレイが取り外されたという警告メッセージが作成されます。動作するファントレイをすぐに取り付けられない場合、システムが過熱のため停止することがあります。マザーボードファントレイのホットプラグ手順の間、これらのメッセージやシステムの過熱による停止につながる冷却問題を避けるため、早急に動作するファンのマザーボードファントレイケーブルを再接続してください。

6. ファントレイをスライドさせてシステムから取り出します。
7. ファントレイ 5 を取り外すときにファントレイ 6 のケーブルを外した場合は、ケーブルをファントレイ 6 に再接続します。

ファントレイ 5 のホットプラグ手順の一部としてファントレイ 6 のケーブルを外し、すぐにファントレイ 5 を交換する場合は、ファントレイ 5 を取り付けるまでファントレイ 6 のケーブルを再接続しないでください。

マザーボードファントレイ取り付け手順の訂正

『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の「マザーボードファントレイの取り付け方法」に誤りがあります。冗長冷却ファンオプションが構成されたシステムでは、マザーボードファントレイ 5 (主マザーボードファントレイ) を取り付ける際に、マザーボードファントレイ 6 のケーブルを外す必要があります。

作業手順にこの手順を追加して、次のようにします。

1. マザーボードファントレイを取り付けるスロットを確認します。
 - a. ファントレイ 5 を取り付ける場合で、ファントレイ 6 が取り付けられているときは、ファントレイ 6 からケーブルを外します。

注 - 稼働中の Sun Fire 880 システムで、両方のマザーボードファントレイが動作していない場合、環境監視ソフトウェアによってファントレイが取り外されたという警告メッセージが作成されます。動作するファントレイをすぐに取り付けられない場合、システムが過熱のため停止することがあります。マザーボードファントレイのホットプラグ手順の間、これらのメッセージやシステムの過熱による停止につながる冷却問題を避けるため、早急に動作するファンのマザーボードファントレイケーブルを再接続してください。

2. ファントレイを、シャーシのプラスチック製のガイドに合わせます。
3. ファントレイをスライドさせて、シャーシに挿入します。
4. ファントレイ 5 を取り付けるためにファントレイ 6 のケーブルを外した場合は、ケーブルをファントレイ 6 に再接続します。

『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の手順 4 に進みます。

詳細は、『Sun Fire 880 サーバーオーナーマニュアル』または『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の「ファントレイについて」を参照してください。

ディスクドライブの取り付け手順の訂正

『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』および『Sun Fire 880 サーバーオーナーマニュアル』の「ディスクドライブの取り付け方法」に不完全な部分があります。次の作業を、手順 10 の次に追加してください。

11. ホットプラグ手順で複数のディスクドライブを取り付ける場合は、直前に取り付けたドライブの緑色の LED が点灯 (点滅ではない) してから、別のドライブを取り付けます。

FC-AL ディスクケースの取り付け手順の訂正

『Sun Fire 880 サーバースーマニュアル』の「FC-AL ディスクケースの取り付け方法」に不完全な部分があります。次の作業を、手順 9c として追加してください。

- 9c. Sun StorEdge PCI Dual Fibre Channel ホストアダプタカードを FC-AL ディスクバックプレーンのループ B の制御用に取り付けた場合は、ベースバックプレーンのコネクタ C(J01100) および D(J01101) に、カードの FC-AL データケーブルを接続します。

FRU パーツ番号の訂正

DIMM の注文

Sun Fire 880 の 4 枚 1 組の DIMM のセットは販売中止になりました。次の表に、Sun Fire 880 の単体の DIMM とそのパーツ番号を示します。

DIMM の説明	パーツ番号
128M バイトの DIMM	501-4489
256M バイトの DIMM	501-5401
512M バイトの DIMM	501-5030

パーツ番号の訂正

『Sun Fire 880 サーバースーマニュアル』の付録 A に記載されている現場交換可能ユニット (FRU) のパーツ番号に誤りがあります。

- 18 GB 10K FC-AL Disk Drive – このドライブはサポートされていません。
- 72 GB 10K FC-AL Disk Drive

FRU の正しいパーツ番号は、次のとおりです。

部品の説明	パーツ番号 (誤)	パーツ番号 (正)
18 GB 10K FC-AL Disk Drive	540-4191	Sun Fire 880 サーバーではサポートされていません。
72 GB 10K FC-AL Disk Drive	540-4519	540-4905

注 – Sun Fire 880 サーバーでは、36G バイト未満の容量のディスクドライブをサポートしていません。

CPU 側のコンポーネントの表の 2 ~ 4 のパーツ番号に変更があります。正しいパーツ番号は、次のとおりです。

番号	説明	パーツ番号
2	CPU/Memory Board Status Assembly	540-4454
3	CPU Fan Tray	540-3614
4	CPU/Memory Board Air Baffle	540-4431

ループ B PCI FC-AL データケーブルの配線指示の訂正

ケーブルコネクタのラベルの付け方に変更があったため、ループ B PCI FC-AL データケーブルのケーブル配線の指示に誤りがあります。

正しい配線情報は、次のとおりです。

ケーブル名	パーツ番号	ケーブルコネクタ	接続先
Loop B PCI FC-AL data cable	530-3056	D	ベースバックプレーンの D
		C	ベースバックプレーンの C
		P3	PCI カードの J3
		P4	PCI カードの J4

この変更によって、『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の次の節に影響があるので、注意してください。

- 「Sun StorEdge PCI Dual Fibre Channel ホストアダプタカードの取り付け方法」
- 「ケーブルの配線」

拡張 FC-AL バックプレーンの取り付け手順の訂正

『Sun Fire 880 サーバースービスマニュアル』の「拡張 FC-AL バックプレーンの取り付け方法」に不完全な部分があります。「次の作業」の再起動 (boot -r) の指示の前に、次の手順を追加します。

1. 拡張バックプレーンを取り付けたあと、システムに電源を入れ、ok プロンプトを表示させます。
2. 少なくとも 10 分間はシステムを ok プロンプトのままにして、2 つのバックプレーンに同じバージョンのファームウェアが読み込まれたことを確認します。
システムは、自動的に 2 つのバックプレーンのファームウェアバージョンの同期を取ります。
3. 必要な待機時間が過ぎたら、システムをシングルユーザーモードで起動します。

```
ok boot -s
```

4. 次の luxadm サブコマンドを入力して、ファームウェアの同期処理が正常に完了したことを確認します。

```
# luxadm display enclosure_name
```

enclosure_name は、Sun Fire 880 内部記憶装置アレイに割り当てられた格納装置の名前で、デフォルトでは FCloop です。最初に格納装置名を確認する必要がある場合は、luxadm probe サブコマンドを使用します。

display サブコマンドの出力には、システムの各 SSC100 の状態が表示されます。次に、デュアルバックプレーンシステムの出力例の一部を示します。

```
SSC100's - 0=Base Bkpln, 1=Base LoopB, 2=Exp Bkpln, 3=Exp LoopB
  SSC100 #0:   O.K. (9222/ 120A)
  SSC100 #1:   O.K. (9222/ 120A)
  SSC100 #2:   O.K. (9222/ 120A)
  SSC100 #3:   O.K. (9222/ 120A)
```

各 SSC100 プロセッサに「O.K.」が表示され、括弧内のファームウェアバージョンが同じであることを確認します。確認された場合は、ファームウェアの同期処理が正常に完了しています。そうでない場合は、約 2 分待ってから、この手順を繰り返してください。

注 - luxadm ユーティリティの詳細は、サプリメント CD の Solaris on Sun Hardware AnswerBook2 に含まれる『特記事項 :luxadm ソフトウェア』を参照してください。

5. ファームウェアの同期処理が完了したら、システムをマルチユーザーモードに戻します。

たとえば、次のように入力します。

```
# init 3
```

制限事項

この節では、Sun Fire 880 サーバーに関連するバグおよび例外事項について説明します。多くの場合、これらのバグを修正するソフトウェアパッチが提供されています。入手可能なパッチの情報については、SunSolve Online Web サイトにアクセスするか、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

PCI ホットプラグ操作の実行中に別の操作を開始すると、システムのパニックが発生する (バグ ID 4452433)

Solaris 8 7/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、PCI ホットプラグ操作の実行中に別の PCI ホットプラグ操作を開始しようとすると、システムのパニックが発生することがあります。この問題は、操作を開始するときにホットプラグのプッシュボタンを使用するか、Solaris cfmgr コマンドを使用するかにかかわらず発生します。

回避策 – 1 つのホットプラグ操作が完了するまで待ってから、新しい操作を開始します。

Solaris 8 で Sun Fire 880 ハードウェアウォッチドッグ機能が動作しない (バグ ID 4374518)

Solaris 8 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、ハードウェアウォッチドッグ機能が動作しません。ハードウェアウォッチドッグ機構については、『Sun Fire 880 サーバーオーナーマニュアル』の「信頼性、可用性、保守性機能について」を参照してください。

注 – この問題の詳細は、SunSolve Online Web サイトを参照してください。

RSC から XIR コマンドを発行すると、システムがリセットされる (バグ ID 4411330)

Sun Fire 880 システムでは、RSC から XIR コマンドを発行すると、システムを OpenBoot プロンプトにする割り込みを発行せずに、システムをリセットします。

注 - この問題の詳細は、SunSolve Online Web サイトを参照してください。

接続されていない電源装置について、RSC が OK と報告する (バグ ID 4421087)

Solaris 8 7/01 オペレーティング環境に付属の Remote System Control 2.1 ソフトウェアを実行している Sun Fire 880 システムでは、何らかの理由で電源装置が接続されていないなかったり、AC 電源が供給されていない場合に、RSC による問題の記録または警告の生成が行われません。

注 - この問題の詳細は、SunSolve Online Web サイトを参照してください。

空いているファントレーが RSC イベントログに障害メッセージを生成する (バグ ID 4470063)

Solaris 8 7/01 オペレーティング環境に付属の Remote System Control 2.1 ソフトウェアを実行している Sun Fire 880 システムでは、空いているファントレーベイに関して、RSC が継続的に RSC イベントログにファン障害メッセージを記録します。このエラーメッセージは、1 時間に 1 回生成されます。

注 - パッチ 111416-05 以降を適用すると、この問題は修正されます。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

ホットプラグ中にディスクドライブを取り外すと、devfsadm -C コマンドを実行する必要がある (バグ ID 4418718)

Solaris 8 7/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、ホットプラグ手順の操作中にディスクを取り外すと、システムのデバイスノードが自動的に削除されません。ディスクドライブを取り外したあと、システムはディスクドライブがあるかどうかを認識できないため、ディスクのホットプラグ手順が完了しません。これは、luxadm remove_device コマンドを使用してドライブを取り外すか、ホットプラグ手順を開始するためにシステムからドライブを引き出すときに発生します。

回避策 — ドライブを取り外したあとで、devfsadm -C コマンドを発行します。

ディスクドライブのホットプラグについては、『Sun Fire 880 サーバーオーナーマニュアル』の「ホットプラグ対応コンポーネントとホットスワップ対応コンポーネントについて」を参照してください。

SunVTS の実行中に picld が終了し、エラーが報告されない (バグ ID 4418396、4486083)

Solaris 8 7/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、SunVTS™ ソフトウェアを使用して連続負荷テストを実行すると、拡張テストを実行したあとで picld デーモンが終了することがあります。環境監視ソフトウェアは picld デーモンに依存しているため、システムの環境監視機能が事実上使用できなくなります。環境監視機能は、安定したシステム操作には不可欠です。

注 — パッチ 110460-09 以降を適用すると、この問題は修正されます。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

デュアルループの内部記憶装置アレイで SunVTS dpctest が失敗する (バグ ID 4487855)

内部記憶装置アレイのループ B の制御用として Sun StorEdge PCI Dual Fibre Channel ホストアダプタカードが取り付けられている Sun Fire 880 システムで SunVTS 4.4 ソフトウェアを使用すると、SunVTS dpctest が失敗します。このテスト障害は、SunVTS 診断コードでの問題から生じるもので、サーバーや内部記憶装置アレイに関する問題ではありません。

注 - パッチ 111854-01 以降を適用すると、この問題は修正されます。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

dpctest のループバックサブテストで、不正なパケットエラーが表示される (バグ ID 4493252)

SunVTS 4.4 が動作し、ファイバインタフェースおよび I²C インタフェースの両方で同時に dpctest を実行している Sun Fire 880 システムでは、まれに競合状態が発生し、バックプレーンに双方からのコマンドが完全に同時に到着して、一方からの応答がもう一方を上書きすることがあります。その結果、SunVTS で不正なエラーメッセージが発生します。次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
VTSID 6021 dpctest.do_fibre_loopbacks.ERROR ses0:Sent loopback packet 0x8B on ses0 but received packet 0x0 Probable_Cause(s): (...)
```

この状態は自己修正され、実際に障害である場合を除いて、短時間に連続して発生することはありません。そのため、このメッセージが単独で表示された場合、または同じメッセージが 10 分以上の間隔を置いて表示された場合は、無視しても安全です。

注 - この問題の詳細は、SunSolve Online Web サイトを参照してください。

prtdiag がファン障害を速度 0 の使用可能として報告する (バグ ID 4431194)

Solaris 8 7/01 または Solaris 8 10/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、Solaris の prtdiag コマンドが、障害の発生したファンを使用可能と報告することがあります。この状況は、ファントレー部品に障害が発生し、システムに起動すべき冗長ファントレー部品がない場合に発生します。この場合、障害の発生したファンのファントレーは使用可能の (電源が供給されている) ままなので、そのファントレー内のほかのファンは動作を継続できます。使用可能の状態を、OK ステータスとして解釈しないでください。単に、ファントレーに電源が供給されていることを示しています。ファンに障害が発生しているかどうかを判断するには、prtdiag 出力で表示されるファンの速度を確認します。ファンの速度が 0 の場合、ファンに障害があります。また、ファンに障害が発生すると、ファントレーの障害 LED と、サーバーの正面パネルのシステム障害 LED および温度障害 LED が点灯します。

注 – パッチ 110849-07 以降を適用すると、この問題は修正されます。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

hsfs:hsnode table full (バグ ID 4082275、4475306)

Solaris 8 7/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、システムを Solaris インストールサーバーとして設定しようとする、インストールサーバーのパッケージまたはパッチのインストール中に、次のメッセージが表示されることがあります。

```
NOTICE:hsfs:hsnode table full
```

このメッセージが表示されると、インストールは完了前に終了し、インストールサーバーソフトウェアは、部分的にしかインストールされません。

回避策 – この状態から回復するには、`/etc/system` ファイルに次の行を追加して、システムを再起動します。

```
set hsfs:nhsnode=1000
```

システムが起動したら、インストールサーバーの設定手順を繰り返します。

電源装置のホットプラグ中の断続的な picld エラー (バグ ID 4431165)

Solaris 8 7/01 または Solaris 8 10/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、冗長電源装置のホットスワップ後、次の picld エラーメッセージが一時的に生成されることがあります。

```
ERROR running psvc_ps_device_fail_notifier_policy_0
No such device or address
ERROR running psvc_ps_overcurrent_check_policy_0
No such device or address
```

これらの警告は、サーバーまたは電源装置の問題ではありません。ホットスワップ操作中のほんの一瞬、環境監視ソフトウェアは電源装置の環境状態を監視できず、結果としてエラーメッセージが表示されます。しかし、この状態は一時的なもので、完全な監視機能は 30 秒以内に回復します。

注 - パッチ 110849-07 以降を適用すると、この問題は修正されます。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

Sun Expert3D-Lite PCI グラフィックスアクセラレータカードで、システムがハングアップする (バグ ID 4474181)

Sun Expert3D-Lite™ PCI グラフィックスアクセラレータカード (サンのパーツ番号 X3684A) は、Sun Fire 880 システムではサポートされていません。Sun Fire 880 システムでこのカードを使用すると、特定のウィンドウの大きさを変更したときに、Solaris Common Desktop Environment でシステムがハングアップすることがあります。場合によっては、画面が暗くなったままシステムがロックされ、再起動できなくなります。

注 - この問題の詳細は、SunSolve Online Web サイトを参照してください。

適正温度を超えた状態になっても、CPU/メモリー スロットの障害 LED が点灯しない (バグ ID 4451164)

Solaris 8 7/01 または Solaris 8 10/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、CPU が適正温度を越えた状態になっても、各 CPU/メモリーボードスロットに関連する障害 LED が点灯しません。ただし、正面パネルのシステム障害 LED および温度障害 LED はこれらの状態に対して点灯し、問題の発生元である CPU を示す警告メッセージがシステムによって生成されます。

注 – パッチ 110849-07 以降を適用すると、この問題は修正されます。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

接続された D1000 ディスクアレイで SunVTS を実 行すると、SCSI の警告が発生する (バグ ID 4482342)

Sun StorEdge™ D1000 ディスクアレイが接続されている Sun Fire 880 サーバーで SunVTS 4.4 ソフトウェアを使用した場合、SunVTS ソフトウェアの起動直後、システムが SCSI の警告メッセージを生成します。各警告メッセージの本文には、次のテキストが含まれます。

```
Resetting scsi bus, data overrun
```

これらの警告は、SunVTS 診断コードでの問題から生じるもので、サーバーや接続されたディスクアレイに関する問題ではありません。

注 – パッチ 111854-01 以降を適用すると、この問題は修正されます。詳細は、3 ページの「必要なソフトウェアパッチ」を参照してください。

電源装置が 1 つだけの場合に、ホットプラグ機能が使用不可にならない (バグ ID 4408237)

動作する電源装置が 1 つだけで構成される Sun Fire 880 システムはサポートされていません。最小の 2 つの電源装置で構成されたシステム (冗長構成ではない) は、どちらかの電源装置に障害が発生した場合、急に停止することがあります。

ただし、電源装置が 2 つだけのシステムでは、片方の電源装置に障害が発生した場合、システムは 1 つの動作可能な電源装置で操作を続行します。この縮退状態において、ホットプラグ操作で PCI カードを追加しようとすると、カードによって必要な電力が増加するため、1 つの電源装置の容量を超えることがあります。結果としてシステムが即座に停止します。Solaris 8 7/01 オペレーティング環境は、電源装置が 1 つの Sun Fire 880 構成を認識しないので、このような状況での PCI ホットプラグ操作が禁止されません。オプションの 3 つ目の電源装置を取り付けると、1 つの電源装置に障害が発生しても、システムは完全に動作可能になります。

あいまいな CE メモリー通知 (バグ ID 4491362)

Solaris 8 07/01 または Solaris 8 10/01 オペレーティング環境が動作している Sun Fire 880 システムでは、DIMM (Dual Inline Memory Module) に ce エラーが発生した場合、Solaris は障害の発生した DIMM が搭載されている CPU/メモリーボードを正しく特定しません。Solaris は CPU/メモリーボード上の正しい DIMM の位置を報告しますが、システム内のどの CPU/メモリーボードに障害の発生した DIMM が搭載されているかを特定しません。

回避策 – 障害の発生した DIMM を正しく特定するには、次の手順を使用します。

1. システムに ok プロンプトを表示します。

a. セキュリティーキースイッチを診断位置に入れます。

これによって、システムの起動中に POST および OpenBoot 診断が強制的に実行されます。

b. システムの電源ボタンを押してすぐ放します。

電源ボタンを押すと、ソフトウェアによるシステムの正常な停止が始まります。

c. システムの電源が切れてから、30 秒以上待ちます。その後システムの電源ボタンを押してシステムに電源を入れます。

キースイッチが診断位置に入った状態でシステムが起動処理を開始すると、システムの起動中に POST および OpenBoot 診断テストが実行されます。POST および OpenBoot の詳細は、『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の「診断および障害追跡」を参照してください。

2. POST テストの出力を使用して、障害の発生した DIMM を特定します。

POST の結果表示の詳細は、『Sun Fire 880 サーバーサービスマニュアル』の「POST 診断の使用法」を参照してください。

3. POST がメモリーエラーを MTAG エラーとして表示した場合、POST は障害の発生した DIMM を正しく特定しません。この場合は、SunSolve Online Web サイトの「Identifying MTAG DIMM errors on the Sun Fire 880」を参照してください。

